# NANA-ナナー

2005(平成17)年7月7日鑑賞〈東宝試写室〉



監督=大谷健太郎/原作=矢沢あい/出演=中島美嘉/宮﨑あおい/成宮寛貴/平岡祐太/ 丸山智己/松山ケンイチ/玉山鉄二/松田龍平(東宝配給/2005年日本映画/114分)

……奈々とナナは同じ20歳だが生き方も性格も正反対。ところがなぜかこんな2人が大の親友に……。2人のNANAを主人公として、今どきの若者たちの生き方をテーマとして描いた超人気マンガの映画化だが、大人も十分楽しめる内容に。中島美嘉がメジャーを目指すボーカリストとして等身大(?)の役柄を大好演! さて、2人の女の子の恋の行方とその人生は……?

#### ■ 映画の面白さは偶然性……?

映画がエライのは、人生にありえないような偶然の出来事を堂々とスクリーン上に見せて、強引に観客を納得させてしまうこと。この映画もそんな偶然が2つ。それまで全く見ず知らずの2人の女の子が、たまたま列車の中で隣り合わせに座ったが、これはどこにでもある話。第1の偶然は、そんな2人がたまたま同じ20歳で、しかも名前が同じNANAだということ。もっともナナ(中島美嘉)はやけに大人びた感じのパンク風だが、奈々(宮崎あおい)は女子高生でも通用するような子供っぽい女の子。もう1つの偶然は、東京で住む部屋を探していた2人がたまたま同じアパートの707号室で鉢合わせになること。映画はつくり物だからそんな、ありえネー偶然がバンバン、オーケー!

## **ご**こりゃ人気が出るはず!

矢沢あい原作の『NANA』は、5年間で累計2300万部も売れている超人気コミックとのこと。その名前くらいは私も知っていたが、もちろん読んだことはない。 しかし、この映画を観ていると、多くの若者たちがこのコミックに魅かれるのも 「なるほど」とうなずける。それは、何よりもこの物語が等身大だから。つまり、誰もがすぐに自分を主人公に同化させることができるわけだ。オッチャンの私がこの映画を観ても、2人のNANAの恋の行方や人生の歩み方に興味がわき、うなずいたり応援したりしたほどだから、この原作は人気が出て当然……?

#### ☆ 奈々の「三角関係」は?

奈々を残して一足先に東京で生活している彼氏の章司(平岡祐太)は、バイトをしながら美大に通う真面目な好青年。そんな章司を追ってやっと上京の夢を果たした奈々だったが、その前にはさまざまな試練が……? その最大のものは、恋がたきの出現。章司がバイト先で知り合ったかわいい女の子は同じ美大の同じ学部。そんな2人が仲良くならないはずがない。こんな時、今どきのカッコいい男は、どんな風に「三角関係」の処理をするのだろうか……? そして、その結果、奈々の恋は、そして結婚は……? それにしても、携帯のメモリーからの削除という行為の重みをあなたはどう思う……?

## **デ**ナナの秘めた恋は……?

この映画の主人公は奈々とナナ、すなわち2人の NANA だが、奈々の恋愛関係は開けっぴろげで単純(?)なのに対して、ナナの恋愛関係は、結構複雑……。それは、ナナが単純に男に尽くすタイプではないとか、小さい時に親と別れているから性格が暗いとか、そういう問題ではない。最大のポイントは、ナナがボーカリストとしてしっかりと生きていきたいという、女の子としてというよりも、人間としての目標をしっかりと持っていること。もちろんそれは人間としてすばらしいことなのだが、恋愛関係においてはかえってそれが2人の間の障害となることも……?

#### **お嬢サマの演技と歌姫の演技は……?**

男を愛することにかけては一途(?)だが、男にとってはちょっと重い感じのする(?)かわいい女の子、奈々を演ずる宮崎あおいは、青山真治監督の『EUREKA』に出演した有望株だが、残念ながら私はこの『EUREKA』を観てい

ない。この『NANA』では、彼女はふつうのサラリーマン家庭の娘ながら、お嬢サマ風の「夢みる乙女」奈々役を好演! ストーリー展開の中、さまざまな形であらわれてくる奈々の女の子らしい悩み(?)にきっと多くの若い女性読者や観客は共感するのだろう。今後の活躍が期待されるかわいい若手女優として、私の頭の中にもインプットしておこう。これに対して、中島美嘉は2001年にデビューした歌手だが、その「天使の歌声」は超一流で、日本の若手歌手No1! 美しいバラード曲から、ノリノリのロック調まで何でもこなすシンガーソングライターだが、この映画では、ナナが等身大の役柄であったこともあって大好演! もっとも、その独特の服装と雰囲気は演技ではなく、地そのものかも……?

# **ご**こんな音楽映画、俺は大好き!

映画の焦点は、ナナに絡むギタリストのレン(松田龍平)。彼はギターのノブ (成宮寛貴)、ドラムのヤス(丸山智己)そしてボーカルのナナとともに BLACK STONES (ブラスト) のメンバーとして活動していたが、メジャーを目指して上京することに……。レンはその2年後、今や人気絶頂のバンド TRAPNEST (トラネス) のギタリストとして人気を集めていたが……?

他方、東京で再度結成した BLACK STONES (ブラスト) には、レンの後釜と してシン (松山ケンイチ) が参加した。この時ナナがシンにかけた言葉は、ナナ の心意気 (?) が俺たち大人にも伝わるいい言葉……。

それはともかく、歌の好きなおじさん、おばさんは、この映画ではこの2つのバンドに大注目! そして、この映画の主題曲となっているのは、ナナ(中島美嘉)が歌う『GLAMOROUS SKY』。これはちょっと難しいが、『四日間の奇蹟』の主題曲として平原綾香が歌う『Eternally』ほど難しくはない。俺も何とか早く自分のモノにして、カラオケの持ち歌にしなければ……。もう1つ TRAPNEST(トラネス)のボーカリスト REIRA が歌う劇中歌が『ENDLESS STORY』。これは美しいバラード曲ですぐに覚えられるもの。むしろ、こちらの方を先に覚えるべきかも……? こんな音楽映画、俺は大好き!

# **ご**ここにも 2 足のわらじをはく弁護士が……

BLACK STONES(ブラスト)のリーダーはドラムのヤス。この映画では、バンドのメンバーたちそれぞれの生い立ちが少しずつ語られ、それぞれに興味深いので、それにもぜひ注目を……。

私が興味をもったのは、このヤスが映画の冒頭、仲間から「弁護士の卵」と呼ばれていたうえ、2年後には立派に弁護士として東京の弁護士事務所で働いていたこと。映画では、彼が何歳で司法試験に合格し、どこの法律事務所で働いているのかはわからないが、ロックバンドのリーダーとしてドラムを叩きながら弁護士をやっていることはたしか……? 原作では多分もっと詳しくそのキャラが明らかになっているのだろうが、私にとっては、ここにも「2足のわらじをはく弁護士」がいたことにビックリ……? 2005(平成17)年7月7日記

# 絶好調! 佐々部清監督

今秋公開予定の『カーデンコール』に先立って、佐々部清監督の『四日間の奇蹟』が公開中だ。『チルソクの夏』をはじめ、佐々部監督の映画の舞台は出身地である下関が多く、この映画も下関の角島という小さな島が舞台。主人公は、少女千織(尾高杏奈)を助けた時、命の次に大切な左手の機能を失った新進ピアニストの如月(吉岡秀隆)。

この映画のポイントは2つの奇蹟を認めること。第1は脳に障害をもった千織が「サヴァン症候群」によかて1度聴いた旋律を一瞬にして記憶するという奇蹟。以降、如月はピアノを弾く千織とともに療養施設慰問の旅を続けることに。こんな2人を迎えたのは、高校時代如月に恋心を抱いていた真理子(石田ゆり子)。

彼女の職場は高度脳障害 患者を大家族主義で治療し ている施設だ。なぜか真理 子にだけは心を開き仲良し になった千織だったが、突 然の落雷事故でとっさに千 織をかばった真理子は瀕死



の重症を。ここで起きる第 2の奇蹟は、真理子の心が 千織の身体に乗り移るこ と。このため真理子の言葉 は、千織の身体を通して語 られることに…。

そんなバカなと思われる ことは百も承知だが、イエ ス・キリストが病人を治し たり、十字架ではりつけに

された後に復活したのが事 実なら、この映画が見せる 奇蹟も事実…? しかし、 それを観客に納得させるに は、それ相応の説得力が必 要だ。そこで問われるの は、役者の演技力と監督の 手腕。

植物状態となった妻和枝 (松坂慶子) を介護しなが ら病院を指揮する倉野医師 (西田敏行)ら、芸達者な 脇役陣を含め、主役3人の 演技はお見事だし、佐々部 監督は絶好調! 美しい島 の灯台や患者との心の交流 をバックに、「月光」「小 犬のワルツ」などの美しい ピアノ曲を聴かせながら観 客に示す『四日間の奇蹟』 は、きっとあなたの涙を誘 うはず。日本映画復活の力 強い足音を確認してもらい たいものだ。

(弁護士 坂和章平)

## 映 画

**産經新聞** 2005 (平成17) 年 6 月17日 (本書173頁参照)